

第4次派遣(いわき) 5月18日(水)～5月26日(木)

松井 謙宏さん (長野)

班長：田辺 雅彦さん (近畿)

平尾 隆暁さん (近畿)

《全労金第四次派遣出発！！》 5月18日



《（左から）近畿労組平尾執行委員、近畿労組田辺副委員長、長野労組松井副委員長》

本日、全労金第四次派遣が出発しました。第四次派遣は、近畿労組田辺副委員長を班長に、近畿労組平尾執行委員、長野労組松井副委員長の3名です。

行き先は、第三次と同じ「いわきBC（ベースキャンプ）」。いわきBCには、全労金3名の他、電機連合24名・全電線2名の総勢29名で、明日から7日間、活動することになります。

今回は、全労金専従役員が参加できないため、単組役員のための派遣となります。3名には、ボランティア活動に加えて、ブログの更新もお願いしており、慣れないことばかりで大変だと思います。

是非、全国の仲間から、3名にエールをお願いします。

《第4次1日目》 5月18日



本日、いわきBCに全労金第4次3名が到着しました。到着後ボランティアセンターの見学と全体の自己紹介を行い、参加されている仲間の決意を聞くなかで、私たちも改めて出来る限りの活動をする決意を固めたところです。明日は予報によるとかなり暑くなるようです。体調管理に気をつけ、最後まで安全に作業したいと考えています。

(報告者 田辺)

《第4次2日目》 5月19日

皆さんお疲れ様です。二日目の報告をします。

作業としては本日が初日となります。本日のミッションは、個人宅の瓦礫の除去です。朝に、今日行う作業の最終チェックを行い、現地に向かいます。私達のベースキャンプの回りは、屋根にシートが被っている家があるものの、家が倒壊しているということはないのですが、向かった先の地域は、瓦礫が山積みになっていたり、道路が波打っていたりと、凄まじい光景が広がっていました。依頼人の方のお宅も、海に近いということもあり、壁が流された跡がありました。

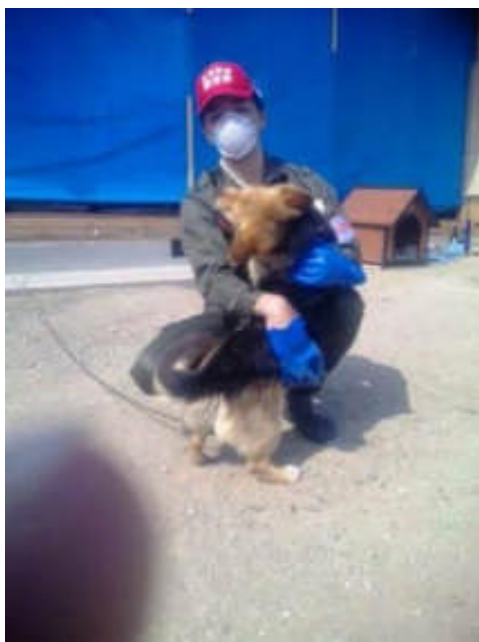
到着後、依頼人の方に挨拶し、五班にわかれ、作業を始めました。庭の土の中には、様々なモノが埋まっており、それを慎重かつ速やかに掘り起こしました。大抵は依頼人の方のお宅のものよりも、回りから流れてきたと思われるものがほとんどでした。

今日の天気は快晴でとても暑く、掘っても掘っても瓦礫が出てくるので、心が折れそうになりましたが、依頼人さんがお一人で作業されているのを見て、がんばらなくてはと、気持ちを奮い立たせました。今日の依頼人の方には、お昼に菓子パンや、凍らせたお茶を差し入れしていただき、とても親切にいただきました。

私達はボランティアで作業をしていますが、職場の皆さんや、組合員の皆さんに支えられて、送り出していただき、現地の様々な人に助けていただいて、ここにいます。そのことに感謝し、また明日からの作業に励みたいと思います。（報告者 平尾）



《近畿労組・田辺副委員長》

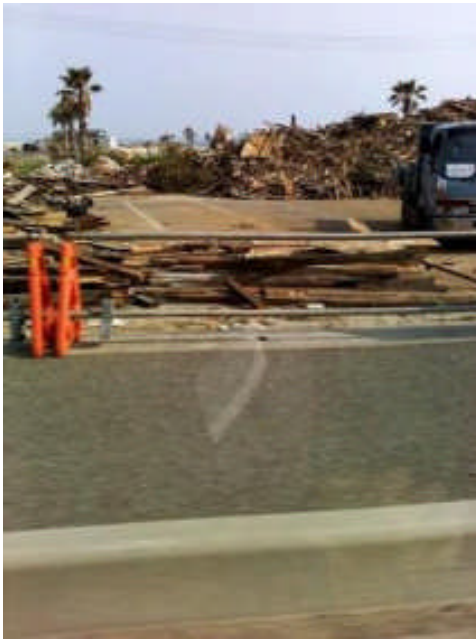


《近畿労組・平尾執行委員》



《長野労組・松井副委員長》

《第4次3日目》 5月20日



3日目です。今日は、田辺さんと私は民家の片付けで、平尾さんは資材班でした。私達は、朝8時にベースキャンプを出発して、まずはボランティアセンターに行き、一輪車やシャベル等の資材を借り入れ現地へ向かいました。場所は、車で30分位の久之浜。向かう途中は、普通の町並みが続いていましたが、現地に近づくとともに様相は一変。壊れた家屋や火事で燃え落ちた家屋が目の前に広がる風景に、言葉を失ってしまいました。

作業は、庭に散乱している瓦礫を分別して、廃棄物の集積場に持ち込み、きれいな状態にするというものでした。私達は、同じ班の全電線の方と、瓦やガラス、陶器を土嚢袋に小分けに入れる等の作業を行ったり、他の班の方と分別した瓦礫を集積場に運び入れ、指定の場所に廃棄する作業を行

いました。特にガラスの分別の中で、サッシを窓ガラスと周りの枠とに分けるのは苦劳しました。ドライバーを使い、ネジ穴を探しながら分解するのですが、どこにネジ穴があるのか探すのに手間どい時間を要してしまいました。何とか分解できた時は、ちょっとした満足感です。

作業は、9時過ぎから途中15分の休憩を挟み12時35分位まで。お昼を45分とって、13時20分から15時過ぎまでという流れでした。かなり暑いので、こまめに休みと水分補給することが大切だと感じました。

作業に入ってから二日目とは言え、慣れないことが多く若干疲れを感じています。しかし、今日、目の当たりにした景色を思い起こすと、頑張らなくてとは強く思います。今日も早めに休んで明日に備えます。(報告者 松井)

《第4次4日目》 5月21日

今日は昨日と同じ現場にて作業を行いました。2日間続けての作業でしたので、片付けも完了し達成感を得られた日となりました。連合部隊は写真のように作業機材の貸し出し返却の管理を行っていますが、今日は一輪車の分解点検まで行いました。さすがに全国から参加されているだけあって様々な技術を持った方々がおられる事に感心しきりです。今日を含めて現地で3日間作業を行いました。今日は「ありがとう」「お願いします」と声をかけていただき、改めて絆を感じました。つぶやき、まだおっちゃんの腰は大丈夫です。

(報告者 田辺)



《第4次5日目》 5月22日

お疲れ様です。連日の応援コメント、ありがとうございます。大変助かります。

本日のミッションは、昼から雨の予報でしたので、部隊を別けて、屋内作業に行くことになりました。私達の班は、個人のお宅の屋内清掃を一般ボランティアの方と一緒にやることになりました。到着すると、依頼内容である部屋の掃除と、屋外の土だしの依頼を受けました。昼から雨になりそうだったので、まず土だしを行います。何故依頼の方が土だしをしてほしかったのかというと、津波で流されてきた土砂が、悪臭を放っていたからです。屋内作業を想定していたため角スコップしかありませんでしたが、手分けして、地面の表面を削り取っていきました。しばらくして一般ボランティアの方が到着され、屋内清掃に取り掛かっていただきました。いつ雨が降るかわからなかったため、休憩無しで作業を行い、なんとか雨が降る前に、土のう50袋もの土を運び出すことができました。その後、一般ボランティアの方と共に部屋の清掃作業に取り掛かります。床上まで津波がきていたので、床は泥だらけですし、食器棚の中まで泥が侵入しています。手順は、ピアノやタンスなどを別の部屋に持って行き、床や壁、ふすまを拭きます。そしてまた家具を戻すという作業の繰り返しです。連合のチームも、一般ボランティアの方々も、とてもモチベーションが高いので、辛い仕事でも汚れる仕事でも進んでやるという意識があり、ついさっき出会ったばかりなのに、それぞれが役割を自覚し、協力しあって作業ができました。

本日は個人宅の中での作業ということもあり、関連する写真はありません。ご容赦ください。(報告者 平尾)

《第4次6日目》 5月23日



『40トンの砂』今日の作業のキーワードです

今日は永崎と言う場所で、畑に入った砂の除去作業を行いました。朝8時に連合メンバー25人が車に分乗して、30分ほどかけて現地に向かいました。現地は海から200メートル位の場所で、畑は依頼者の家の前に広がっており、広さはざっと300坪位ありました。

まずは、3つ程のチーム編成を行い、場所を振り分けて作業に入りました。チーム内では、一輪車で砂の運搬担当とスコップでの砂の掘り起こし担当に分かれ、砂を隣の小学校の校庭に持っていく作業です。最初は体力的に余裕があるため、声を出しながら、ある意味楽しく作業をしていましたが、1時間程すると声を出す余裕は無くなり、至るところで「これはキツイ！」との声があがりました。午前中の作業が終わる頃にはヘトヘトです。

午後は作業効率を上げるため、一輪車で運搬を取り止め、その場で1トンの砂が入る袋に砂を詰め込む作業を行いました。袋の完成形は円柱に成らなくてはいけないのですが、最初は要領を得ないため、潰れた饅頭のような形になってしまいました。幾つかやっていると、円柱に近い形になり、それが並ぶ光景に達成感を得られました。袋は建設業者さんが、シャベルカーで隣の小学校の校庭に運んでくれました。袋は全部で30個余りで、午前中の分を入れて約40トンの砂の除去ができた計算になります。今日一日で体の疲労が一気に増しましたが、心地よい疲労感です。しかし、除去が出来たのは全体の4分の1程度です。それだけを見ても、まだまだ手助けが必要なのです。元の生活に戻るのがどれだけ大変かを改めて感じた一日でした。（報告者 松井）

《第4次7日目》 5月24日



《平尾くんと全電線の岡部さん》



《着ている白い服は使い捨て作業服です》

今日の作業は側溝に溜まった砂を土嚢袋に詰め、詰めた袋を使って砂が再び溝に流れ込まないように積んでいくというものでした。依頼されたのは50メートルほどでしたが、そこは連合部隊！途中から合流した一般ボランティアの方と力を合わせ三倍ほどの範囲をみごとにやり終えました。見事!!の一言です。海沿いの堤防下の溝でしたので風が通らず暑い中の作業でしたがやり遂げました。途中、町のおばあさんから「きれいにしてくれてありがとうございます。涙が出る」と声をかけていただきました。こちら心の中で涙です。あと残すところ2日となりました。気持ちとしてはまだまだいたいと強く思っています。この気持ちを次の班に引き継ぎ、そして全労金の仲間に伝えたいと思います。がんばっぺ！ふくしま （報告者 田辺）

《第4次8日目》 5月25日



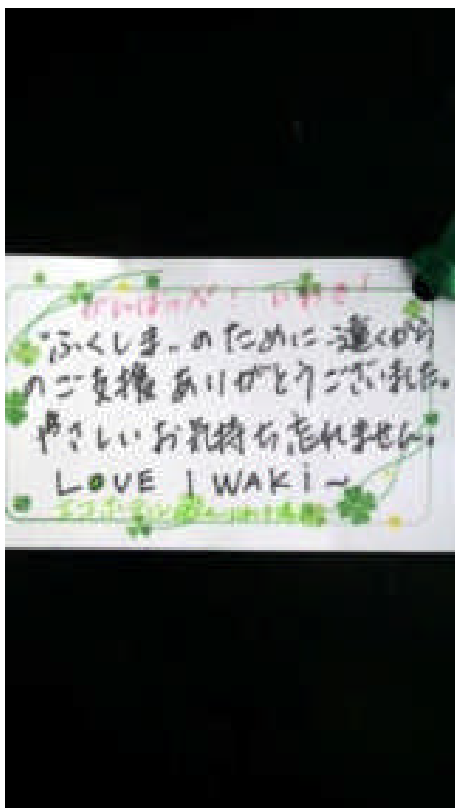
今朝、午前5時35分頃、震度5弱の地震が起きました。私は少し前に起床していましたが、とても寝ていられない揺れを感じました。地元の方と話をしていると、1番大きな地震が起きたあとは、このクラスがしょっちゅう起きていたらしく、今朝の地震で、また3月11日のことを思い出したとおっしゃっていました。減ってはきたものの、震災から2ヶ月以上経過しても、余震は起こっており、被災した人々の心には、ずっとあの時のことが心に残っていることを再認識しました。

本日は作業としては、最後の日となります。与えられたミッションは、昨日の作業箇所を、完全にすることです。溝に土が残っているところは、土のう袋に土を入れ、溝に砂が流れない

ように、土を土のうでおおいました。

終わってみると、まだやりたい気持ちで一杯になりました。無事に最後をむかえられたことは決して僕達だけの力でなく、現地の皆さん、応援してくれた皆さんのお陰です。本当にありがとうございました。

《最終日》 5月26日



今日は、朝7時半にバスでホテルを出発して、東京に戻りました。

この9日間を振り返ってみると、自分の人生の中でもとても貴重で意味ある時間を過ごすことが出来たのだと思います。テレビの画面でしか知り得なかったことが、いかに一部のことを表層的に捉えるものであったかを肌で実感しました。また、一人一人の力は微力でも、多く人々が共にボランティア活動を行うことで、被災地の復興が一日でも早く進むのだと思いました。

被災地の現状は、まだまだ復興には長い時間を要すると感じます。至るところで家屋は壊れ、火事で焼け野原になっている所もありました。人の手が入らず、そのままになっている所も多くありました。でも、地震の前には私たちと同じ日常がそこにはあったのです。その日常を取り戻すことが、個々の力では途方もなく大変なことだと思います。だからこそ、少しでも多くの援助が必要なの

のだと思います。

一方、今回のボランティアに参加していると、実に様々な人が来られていることを実感しました。九州の福岡からボランティアセンターの運営支援に来ていた人、東京から有給を取って一人でボランティアに来ていた人、私たちと同じ様に団体で参加している人、等々、こんなにも多くの人々がボランティアに参加しているのかと感動を覚えました。きっと、みんな思いは一つです。被災地の復興が早く進む様にと。この様な思いが、大きな力になって被災地の復興を後押ししていくのだと思います。

最終日のホテルの朝食に、一人一人に宛てたメッセージカードが添えられていました。その気持ちに答える為にも、私たちは、地震で被災されている人がいることを『忘れない』ことが必要だと感じました。(報告者 松井)

以 上